



本校の調査結果の概要

丹波市立和田小学校

和田に誇りを持ち、自立して未来を創る和田っ子の育成
～心豊かにたくましく学び続ける和田っ子に～

1 調査の目的

- ◆義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ◆学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ◆そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
※なお、この調査により測定できるのは学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面です。

2 調査内容

- ① 教科に関する調査（国語、算数）
出題範囲は、調査する学年の前学年までに含まれる指導事項を原則とし、出題内容は、それぞれの学年・教科に関し、以下のとおりとする。
 - ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等。
 - ② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等。
調査問題では、上記①と②を一体的に問うこととする。

② 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

児童生徒に対する調査	学校に対する調査
◆学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査	◆指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査

3 調査実施日

- ◆令和5年4月18日（火）

4 調査を実施した学年

- ◆小学6年生児童

5 学力の状況

顕著な内容を中心に記載しています。

- 印=全国平均より上回っている内容
- ▲印=全国平均より下回っている内容

【国語】本校の平均正答率は、全国と比べて課題がみられる状況でした。話すこと・聞くことについては全国と比べて取組の成果が見られました。書くこと・読むことについては全国と比べて課題がみられました。

- 漢字を文の中で正しく使う。
- 必要なことを質問しながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの内容を捉える。
- 日常よく使われる敬語を理解している。
- ▲ 図表やグラフなどを用いて自分の考え方が伝わるように書き表し方を工夫する。
- ▲ 目的に応じて文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見つける。



【改善の方向】

- ◆ 話すこと・聞くことについては、お互いの立場を明確にしながらか計画的に話し合い、自分の考えをまとめるよう工夫する。
- ◆ 書くことについては、情報と情報との関係を捉えたり、グラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫したりする学習活動を取り入れる。
- ◆ 読むことについては、様々な情報の中から原因と結果の関係を見だし結び付けて捉えることや、中心となる語や文を見付けて要約する学習活動を取り入れるよう工夫する。

【算数】本校の平均正答率は、全国と比べて課題が見られる状況でした。領域別にみると、数と計算、変化と関係については全国と同程度、図形、データの活用の領域において、全国と比べて課題がみられます。

- 一の位が0の二つの二位数について、乗法の計算をする。
- 加法と乗法の混合した整数の計算をしたり、分配法則を用いたりする。
- 示された棒グラフと、複数の棒グラフを組み合わせたグラフを読み、見出した違いを言葉と数を用いて記述する。
- ▲ 高さが等しい三角形について、底辺と面積の関係をもとに面積の大小を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述する。
- ▲ 二次元の表から、条件に合う数を読み取る。



【改善の方向】

- ◆ 図形の学習では、基本的な図形を構成する要素に着目して、図形の性質や図形の計量、図形の構成の仕方について考察できるように工夫する。
- ◆ データの活用では、複数のグラフからデータの特徴を捉え見いだしたことを表現したり、データの特徴や傾向から導いた結論について表から根拠となる数に着目したりする活動を取り入れる。

和田小学校の学力向上に向けた取組



和田小学校では、教職員で調査結果を分析したうえで、次のような取組を全学年で進め、授業改善に取り組んでいます。

- ① 朝のスタディタイム等を利用して、基礎的な漢字や計算の力を伸ばしていく。定期的に漢字テストを実施し、普段から文章を書く際に漢字を使うように意識づける。
- ② 授業の中で自分の考えや意見文を書かせる際に、字数を制限したり、2段階で書かせたりと、条件をつけて書くことに慣れさせていく。
- ③ 読書の推進を図り、いろいろな文章や読み物にふれるとともに、ブックトークによって、内容のあらすじを要約する力を伸ばしていく。
- ④ 説明文や物語文などの全体の構成を把握することや内容を読み取ることについては、今後も継続してしっかり行っていく。
- ⑤ 図形の描き方だけでなく、それぞれの図形の性質についての理解を深めていく。
- ⑥ 立式の根拠や言葉と図、式を関連づけた説明ができる力、思考を深めるような授業の展開を工夫する。
- ⑦ 算数だけでなく理科や社会でも、表やデータの見方や、それをもとにした事象の特徴を考えたり説明したりできる力を大事にした授業を進めていく。
- ⑧ 効果的に少人数指導を実施し、児童の理解度に適したきめ細かな授業を推進していく。

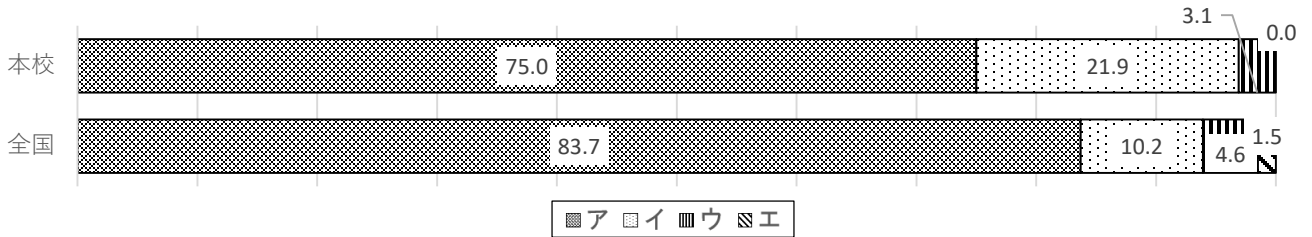
6 学習や生活の状況等

※児童質問紙より抜粋。数字は%です。

(ア)当てはまる (イ)どちらかといえば当てはまる (ウ)どちらかといえば当てはまらない (エ)当てはまらない

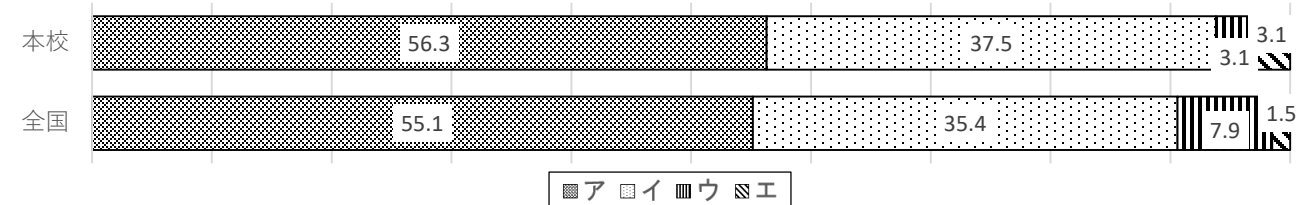
Q 朝食を毎日食べていますか

脳のはたらきはブドウ糖がしっかり供給されることで活性化され、集中力や記憶力が高まると言われています。97%の児童が肯定的回答をすることから、好ましい生活習慣が身についていると言えます。



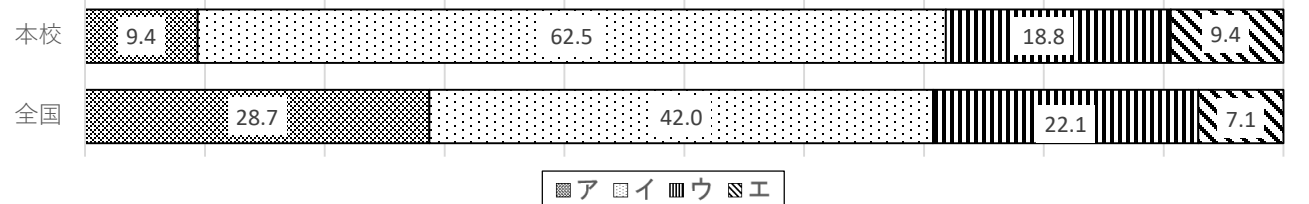
Q 毎日、同じくらいの時刻に起きていますか

94%の児童が肯定的回答をしています。また、「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」という質問にも同様の結果が出ていることから、規則正しい生活習慣を確立している児童が多いということが言えます。



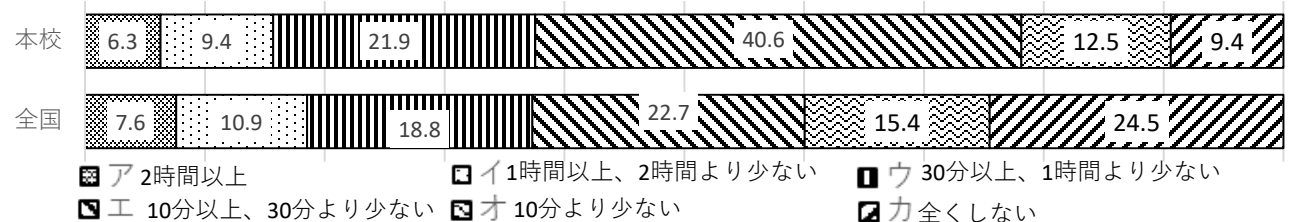
Q 家で自分で計画を立てて勉強をしていますか

全国と比べて、肯定的回答な回答をしている児童が多いという結果が出ています。学校の予習や復習を含めて、一日の生活の中に計画的に家庭学習を位置づけて取り組んでいる様子をうかがうことができます。



Q 学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書を読みますか (電子書籍の読書も含む。教科書や参考書、漫画や雑誌は除く)

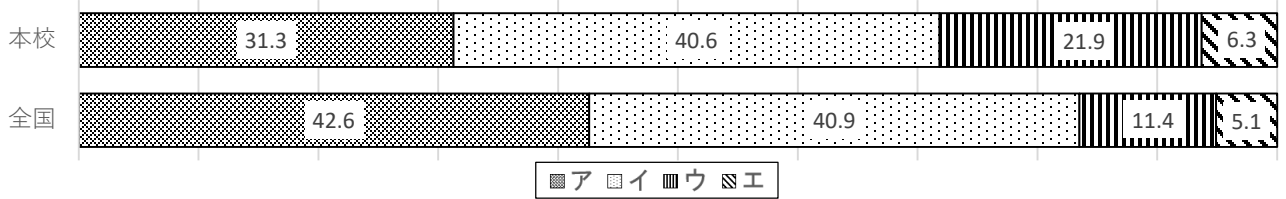
読書を全くしないという児童の割合が全国と比べて少なくなっています。読み聞かせボランティアの活動や「読書時間アップウィーク」の取組により地域や家庭の協力をいただきながら図書館教育を推進していることが成果につながっていると考えられます。



Q 自分にはよいところがあると思いますか

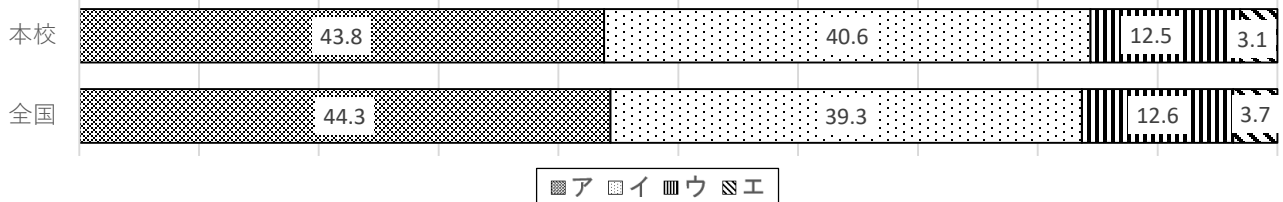
(ア)当てはまる (イ)どちらかといえば当てはまる (ウ)どちらかといえば当てはまらない (エ)当てはまらない

自己肯定感は、子どもの成長にとって最も大切なものです。自己肯定感が高いほうが、挑戦心や達成感、規範意識や自己有用感に関する意識が高いという分析結果が出ています。褒められたり認められたりする経験が多いほど自己肯定感が育つと言われています。



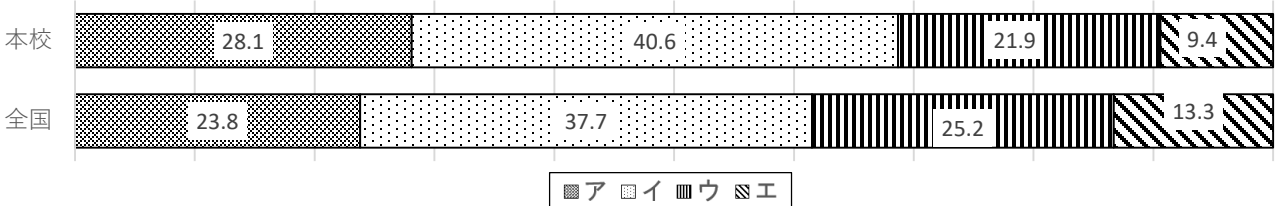
Q 道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか

令和3年度から「自分のこととして捉え、他者と共によりよく生きようとする児童の育成をテーマに研究指定を受けて実践をしています。他者や自己との対話により考えを深める授業づくりの取組が成果として表れてきており、他の教科等にも広げていきたいと考えています。



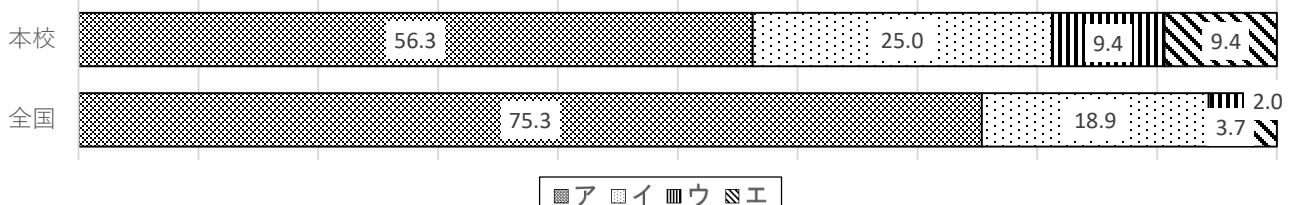
Q 国語の勉強は好きですか

全国と比べて、肯定的回答な回答をしている児童が多いという結果が出ています。また、「国語の勉強は大切だと思いますか」という質問に対しては88%の児童が、「国語の授業の内容はよく分かりますか」という質問に対しては84%の児童が肯定的な回答をしており、学習に対する意欲がうかがえます。



Q 算数の勉強は好きですか

81%を超える児童が肯定的な回答をしています。また、「算数の勉強は大切だと思いますか」という質問に対しても81%の児童が、「算数の授業の内容はよく分かりますか」という質問に対しては78%の児童が肯定的な回答をしており、学習に対する意欲がうかがえます。



7 今後の取組

① 主体的・対話的で深い学び

- ◆ 児童が課題に興味を持って取り組める授業を推進します。
 - 日常生活や既習内容と関連させて課題を設定する。
 - 相手意識を持って、意欲を持って自己表現をする。
- ◆ 児童が主体となって課題解決に向かう授業を推進します。
 - 課題解決に向けた見通しを持つ。
 - 自分の学びの変容を感じ、自分の学びを自覚できる振り返りを設定する。
- ◆ 友だちと学びあいながら課題解決に向かう授業を推進します。
 - 友だちの意見を受け止め、自分の意見と比較し自分の考えをまとめる。
 - 学び合いを促す支援(声かけ、ICT、思考ツール)を活用する。

② 個別指導の充実

- ◆ 朝のスタディタイムを継続し、基礎基本の定着と充実を図る。
- ◆ 学習システム教員と連携し、理解度や定着度に応じた支援を進める。
- ◆ 高学年を中心に、少人数学習や個別の学習をおこない、基本的な学習内容を確実に習得する。

③ 学習への意識改革

- ◆ 児童が主体的に授業に参加し、「わかった」「できた」と実感できる授業を進める。
- ◆ 児童が相互に話し合い、関わり合いながら学びを深めていく。
- ◆ 先生から教えてもらうという意識から脱却し、自ら課題を解決するよう取り組む。

④ 自尊感情の高揚

- ◆ 「たちばなの木」など、できたことをたたえ、お互いを認め合う活動を推進する。
- ◆ 授業の中でほめる指導を継続し、さらに自尊感情を高めていく。
- ◆ スモールステップで課題に取り組ませ、学習意欲を高めるような評価をおこなう。

⑤ 学習基盤としての学級づくり

- ◆ 人権教育を中心にすえた学級づくりを進め、安心できる居場所を作る。
- ◆ 安心して発表したり意見を聞き合ったりしながら、学びに向かう集団作りをする。
- ◆ 一人ひとりが安心して、認め合える雰囲気づくりを進める。

保護者の皆様へ

- ◆ 努力やがんばりを認めて、笑顔でほめる言葉かけを増やしましょう。
- ◆ 学校のことや勉強のことなど、子どもと一緒に話をしましょう。
- ◆ 家庭学習は時間を決めて、毎日学習できるよう習慣づけましょう。
- ◆ 地域の行事に進んで参加させ、体験活動の機会を増やしましょう。